

防災・減災 だより

2017年
1月13日
(金)

「防災とボランティア週間」(1月15日～21日)

「防災とボランティアの日」とは、阪神・淡路大震災に因んで制定された記念日です。この震災で学生を中心としたボランティア活動が活発化し、「日本のボランティア元年」と言われました。これをきっかけに、ボランティア活動への認識を深め、災害への備えの充実強化を図る目的で、同年12月の閣議で「防災とボランティアの日」の制定が決定され、翌1996年から実施されました。この日を中心に前2日後4日を含む計7日(1月15日～21日)が「防災とボランティア週間」と定められています。

東日本大震災(2011.3.11)も、もうすでに記憶から薄れつつありますが、1995年1月17日の「阪神・淡路大震災」はすっかり過去の歴史事項になってしまったかもしれません。午前5時46分に発生したM7.3の地震は、都市の直下で起こった地震ということもあり、死者は6,434人になりました。死者の80%相当は木造家屋が倒壊し下敷きになって即死した人たちです。特に1階で就寝中に圧死した人が多かったといわれます。また、死者の10%相当、約600人は「室内家具の転倒による圧死」と推定する調査(山口大学・大田教授のグループ)もあります。

さて、近い将来に私たちが経験するであろう「東海地震」、さらには「南海トラフ地震」の被害はどうなるのでしょうか。東日本大震災以後、津波被害がかなり心配されています。特に太平洋に面する地域では深刻な課題です。

市区町村名	ケース① 最短到達時間(分)					最大津波高(m)
	津波高+1m	津波高+3m	津波高+5m	津波高+10m	津波高+20m	
名古屋市港区	103	-	-	-	-	5
豊橋市	12	18	25	27	-	19
半田市	75	-	-	-	-	4
豊川市	82	-	-	-	-	4
碧南市	68	-	-	-	-	4
刈谷市	100	-	-	-	-	4
西尾市	46	53	-	-	-	7
蒲郡市	65	-	-	-	-	6

豊橋表浜では19mにも達する津波がわずかな時間で海岸線に到達するといわれます。三河湾にも津波は押し寄せます。最悪の場合蒲郡で6m、豊川市で4mという発表(2012.8)もありました。でも湾内は逃げる時間があります。命があったら、急いで高台に逃げればいいのです。問題は逃げるができなくなった時です。阪神・淡路大震災と同様の被害(建物・家具の下敷き)を避けなければなりません。右のグラフから(2012.8)愛知県の被害予想は、津波よりも建物の倒壊が圧倒的に多いことがわかります。建物や家具に殺されない工夫を実施しておく必要があります。

中部地方が大きく被災するケースの最大死者数 一…むずか

	建物倒壊	津波	急傾斜地崩壊	火災	合計	水門などの機能不全による増分
静岡県	13,000	95,000	40	1,600	109,000	5,300
愛知県	15,000	6,400	50	1,800	23,000	4,000
三重県	9,800	32,000	60	900	43,000	1,800
滋賀県	500	-	-	-	500	-
岐阜県	200	-	20	-	200	-
長野県	50	-	10	-	50	-
福井県	-	-	-	-	-	-
合計(全国)	82,000(人)	230,000	600	10,000	323,000	23,000

※概数のため必ずしも計算は合わない

今後30年以内に発生する巨大地震は、中央防災会議発表(2012.1)によれば、非常に高い確率で発生するという試算結果を公表しています。首都直下型の巨大地震や富士山噴火の危険性も高まっているという報道もありました。今、日本の地盤は何百年ぶりの活動期を迎えているともいえます。いっどこで災害が起ころうとも生き抜いていく知識と行動力を身につけなければなりません。

阪神・淡路大震災では、大学も多くありアパートなどの集合住宅には、低所得者、高齢者の他に学生が比較的多く住んでいました。このため高齢者とともに20歳代で死亡者数が多かったのも東日本大震災と異なる特徴の一つとなっています。国府高校の卒業生には関東・関西で学ぶ人が多くいます。自分の身は自分で守る。絶対に死なないために最善の努力をする。このことを常に考えていれば、「釜石の奇跡」(釜石市の小中学校の児童生徒はほとんど死ななかった)は、奇跡でなく誰でもできます。生き抜く工夫を常に考えていてください。

もしも、授業がある日に大地震が起こったら・・・？ 圧死による被害は少なくなりますが、授業中なら家族の安否、登下校中なら生徒の安全状況を把握することは非常に難しく、安否確認はかなり遅れることが予想されます。できるだけ早く安否確認をするためにも家族の間で、学校の組織の中で安否確認の方法を定めておくことはとても大事なことです。

つきましては、「防災とボランティア週間」が次の日曜日からはじまるにあわせて、各家庭で是非情報の交換訓練を行ってほしいと考えています。なにとぞよろしくお願ひします。

家族間の連絡方法

①災害伝言ダイヤル

(ア) 特色

- 1 メッセージあたり 30 秒まで録音可能。
- 公衆電話はもちろんのことダイヤル回線でも OK。
- 携帯電話、PHS からのご利用可能。
- 利用料金は、被災地までの通話料。

(イ) 利用方法

被災地の住民は、電話番号 171 に電話し、自宅の電話番号などをキーにしてメッセージを登録し、被災地以外の関係者はやはり電話番号 171 に電話し、被災地宅の電話番号を入力してメッセージを再生するものである。(どの電話番号に登録するか、家族での話し合いが必要。)

(ウ) 練習期間 (普段は開設されていないが特別期間がある)

- 毎月 1 日 0:00 ~ 24:00
- 正月三が日 (1 月 1 日 0:00 ~ 1 月 3 日 24:00)
- 防災週間 (防災の日を中心とする 8 月 30 日 9:00 ~ 9 月 5 日 17:00)
- 防災とボランティア週間 (1 月 15 日 9:00 ~ 1 月 21 日 17:00)

詳しくは「災害伝言ダイヤル <https://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/>」で検索してください。

②災害用伝言板 (メール)

(ア) 特色

- 大規模な災害時に携帯電話やスマートフォンで安否確認ができる。
- 登録された安否情報はインターネットなどを通じて、全世界から確認できる。
- あらかじめ指定した家族や友人に対して、災害用伝言板に登録したことをメールで知らせたり (登録お知らせメール)、被災地の方に災害用伝言板への安否情報の登録を依頼 (登録お願いメール) することも可能。

(イ) 利用方法

- それぞれの通信会社の HP「災害用伝言板」にアクセスし登録。
- (スマホ・iPhone などは各会社ごとに検索して下さい。)

③その他

- ・ Facebook や Twitter、Line など、あらゆる情報発信手段を使う。家族で共有できるものを用意しておくことはとても大事なことです。公衆電話も一般の固定電話や携帯電話に比べれば繋がりやすいのですが、最近では公衆電話を見かけなくなりました。

学校と生徒間の連絡方法

「きずなネット」・・・本校から登録者に一斉メール配信します。登録されていないと連絡できません。できる限り登録をお願いします。返信はできません。

「あいち電子申請・届出システム」・・・生徒・保護者から学校に安否確認の連絡をするシステムです。「きずなネット」からアドレスを送信しますので、そこからアクセスして下さい。(「届出システム」では学校から配信できません。)